

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人地球の園 放課後等デイサービスこひつじ		
○保護者評価実施期間	2024年3月1日		～ 2024年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2024年9月1日		～ 2024年9月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	2024年10月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	キリスト教保育。 泉北ニュータウン教会を母体として、53年前に創設された社会福祉法人地球の園こひつじこども園の一角に、2018年に放課後等デイサービスこひつじが創設されました。長年培ったキリスト教保育(神様の愛を感じられる支援)に基づき、一人ひとりの尊厳を守り、そのらしさを大切にする支援は、子どもたちの生きる力を養っています。	お部屋は、家庭をモデルにした落ち着いた温かい雰囲気につながっています。子どもたちが自分の好きな遊びを自由に選べるように、いろいろなコーナー(絵本、乗物遊び、ままごと遊び、造形遊びなど)に区切られています。ゆったりして欲しい児のために、プライベートボックスなども用意しています。	キリスト教の教えではなく神様の愛を感じられる支援、自分が大切にされていると感じられる支援は、職員一人ひとりの思いやりによって支えられています。職員自身が幸せで余裕があることを大切にしながらも、子どもたちや保護者に向き合っていくようにしなければなりません。また、歴史あるキリスト教保育の学びもさらに充実していきたいです。
2	人的環境の充実。 子どもたちが、良い環境で育てられることを大切にしています。人的環境として、常勤職員は全員保育士資格を持っています。また、職員一人ひとりがさらに支援の幅を広げられるように、事業所内での研修の他、外部への研修も自由に参加できる制度も整えています。	同じ法人のこひつじこども園の保育士が、異動して放課後等デイサービスこひつじの支援者となっています。子どもの育ちを支える支援ができるよう、事業所内研修にも力を入れています。自分の受けたい研修の費用や時間をサポートする研修制度も整えています。あい・さかい・サポーターの研修も受講しています。	多岐にわたる研修を職員が自分自身のニーズにしたがって、受けていく体制を整えています。研修の内容を報告してもらい、職員みんなで共有しています。子どもたちとともに、自分自身も成長していく意識を持つことが大切です。今後は、パート職員への研修の機会を充実させていくことが課題です。
3	実体験の重視。 子どもたちが、5領域にわたり、実際に体験することを大切に支援しています。見える力よりの見えない力、知ることよりも感じることを、大事にした支援を目指しています。保護者の方からも、プログラムについて、高く評価していただきました。	さまざまな実体験を重視した活動プログラムを展開しています。歌やお絵かき、工作活動、絵本などの読み聞かせ、ダンスなど、五感を使った活動を大切にしています。植物や小動物の飼育、造形遊び、クッキング、水遊び、こひつじこども園の園庭やホールなどを利用した全身遊び、戸外遊びなど、子どもたちの興味や関心にそった活動をしています。長期休暇中にや土曜日には、いろいろな場所へのお出かけなども工夫して行っています。	子どもたちの「心が動く」体験をたくさんしていくことが大切です。子どもたちが、「楽しい」「うれしい」などの感情はもちろん、時には「しんどい」「くやしい」と感じることも大切だととらえています。バーチャルな環境が広がる中で、生きている喜び、実感を味わえる本物の体験をさらに充実させていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が乏しい、と考える保護者や職員が比較的多いです。	コロナのため、交流ができない状況があって、機会が失われていました。放課後にデイこひつじに帰ってくる時間が遅く支援時間が短いことも、平日に交流を行うことが難しくなっています。	土曜日には、こひつじこども園の行事の卒園児のためのプログラムには、参加しています。また、ことごとく倶楽部という小学生以上対象の邦楽クラブにも、月1回の土曜日に参加しています。2024年度から、夏休みなどの長期休暇中に、こひつじこども園の学童を利用している子どもたちとの交流を、週に1～2回行いました。
2	保護者同士の交流や家族への支援、きょうだい同士の交流の機会などに課題がある、と考える保護者が比較的多いです。	保護者会などがなく、保護者同士の交流する機会が少ないと思います。年に2回、親子懇談会を行っていますが、親子の顔合わせはできても、それ以上の交流にはなかなか発展していかないようです。	2024年度は、保護者だけの座談会を11月に開催することにしています。継続していくことで、保護者同士の交流が生まれることを願っています。その中で、保護者会設立に向けて模索していきたいと思っています。
3	地域の障害福祉を担っている公共機関と連携して支援を行う体制が整えられていない、という意見の職員が比較的多いです。	利用児に、必要な機関との連携が必要だと判断した場合には、連絡をとり、連携をとるようにしています。利用児や保護者、事業所内での困りごとを、どこにどう相談したらよいか、職員が知っていく必要があります。外部連携を学ぶ機会が少ないことも、その原因かと思われます。	堺放課後連絡会等を通じて、自立支援協議会をはじめ、様々な関係先との交流を行っていく計画が持たれています。そこに積極的に参加していきたいと思っています。また、事例を通して、どういった連携先があり、どう連携していくのかを学んでいきたいと思っています。あい・さかい・サポーターの研修をはじめ、提供されている学びや研修、交流の機会を積極的に利用していきます。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	放課後等デイサービスこひつじ
------	----------------

公表日 2024年6月10日

利用児童数 17名

回収数 13名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	12			1		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	12			1		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12				1	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。						昨年度に実施した保護者評価アンケートにはなかった項目には網掛けしています。
適切 な 支 援 の 提 供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。						
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。						
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	12				1	
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。						
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。						
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	13					
11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	6				7	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度は、こひつじこども園の行事「お楽しみ会」や「あそぼフェスタ（運動会のような行事）」「クリスマス会」等に卒園児と一緒に参加しました。また、ここと倶楽部（わらべうたや邦楽を楽しむ児童対象の活動）に参加し、地域の子どもたちとの交流を行ってきました。これらは、いずれも土曜日の活動でした。 ・2024年度は、上記の土曜日のこども園の行事への参加やここと倶楽部への参加に加えて、夏休みなどの長期休暇中に、こひつじこども園の学童保育の子どもたちと、クッキングやトランプなどをして、交流をはかりました。 	
12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	13					・家庭では経験できないような遊びや活動（おでかけ等）を、よく工夫して提供してもらっていると思います。	
13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。							
14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。							
15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	13						
16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	13						

保護者への説明等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8		1	4	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度も、親子参加の懇談会を、年に2回ほど開催しましたが、保護者同士の連携が支援されているとは言えない状況です。 ・2024年度は、年に2回の親子参加の懇談会に加えて、保護者同士による座談会を11月に行い、子どもたちの進路について話し合う機会を持ちます。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10			3	
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12			1	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	12			1	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	13				
	非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	9			4
24		事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8			5	地震発生時の訓練については、毎年9月にこども園と合同で、大阪800万人避難訓練に参加しています。その際に、災害時に必要な防災用品のチェックも行っています。
25		事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。					
26		事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	13				
	29	事業所の支援に満足していますか。	13				<ul style="list-style-type: none"> ・個々の家庭の状況により柔軟に対応していただいて、感謝です。 ・いつもありがとうございます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
放課後等デイサービスこひつじ		2024年10月31日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9	1	・定員数に対しては適正です。 ・好きなコーナーで遊べるようにしているので、棚や椅子などが常設されています。 ・利用時間やその日の時間割に応じて戸外やこども園スペース（ホール、園庭）等も利用しています。	・好きなコーナーで好きな遊びを自由にできるようにしているので、相互の遊びや活動に音や行き交いがあり、手狭に感じることもあります。それも、「お互いに気をつけようね。」と声掛けなどをし、配慮を培う環境になっていると感じています。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		・飛び出し防止の施錠の工夫がされています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9.5	0.5	・おおむね子どもたちの動きや活動にあわせたコーナーがあります。 ・毎日の終わりに、掃除をしています。また、月に1回室内整備の日を設け、環境整備を行っています。	・玩具がそろっているか、破損していないかの確認を行い、気づいた時点で適切に行っていく必要があります。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	2	・宿題をしている児の妨げにならないように、戸外やホールなど部屋から出られる時は、出るようにしています。 ・こども園の活動に配慮しつつ、園庭やホールが使用されています。	・宿題をする児の場所と音を出したり声を上げて遊ぶ児の場所が近くなってしまうことがあります。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	1		・その都度、気がついたことを発言しやすい雰囲気醸成するとともに、パート職員の参画機会を広げていく必要があります。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		・昨年3月に評価アンケートを行い、その内容を保護者に公表するとともに職員間で共有し、業務の改善に役立っています。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	2	・毎月ミーティングを行い、子どもの支援や、業務の問題などについて、話し合いをしています。	・ミーティングの議事録を、全職員に開示していくことにしました。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	7		・今後第三者評価の受審を検討していきます。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		・職員に外部の研修の案内を積極的に言い、そのための費用と時間を付与しています。（就業規則に明記） ・また、年に2回、事業所内での研修をパート職員も含めて行っています。	・パート職員の外部研修の案内も、行っていきたいと思っています。
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	1	・年度初めに、年間の支援計画を作成し、保護者の方に文書で通知しています。 ・月に1回、カリキュラム検討会を行い、支援プログラムを検討しています。	・ホームページなどによる公表を検討していきたいと考えています。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		・ご利用開始前に、こどもの様子を見させていただいたり、保護者と面談を行いアセスメントを行っています。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		・新しく利用されるお子さまについては随時、情報を共有しています。 ・月に1回のミーティングの中で、子どもたちの様子や支援の検討を行い、その内容を支援計画に活かしています。	・パート職員の情報共有に気をつけていく必要があります。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		・年度初めに、パート職員も含めて個別支援計画の共有をしています。 ・また、個別支援計画とは別に、目標にむけてのスマールステップとしての支援記録を作成しています。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	2	・保護者からいただいた発達検査結果や診断書などは参考にしていますが、デイこひつじ内でのアセスメントは、行動観察などを主として行っています。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5.5	1.5	・個別支援計画には、本人と家族のそれぞれの「ニーズ」、長期と短期の「到達目標」、「具体的な到達目標と支援内容（留意点）」の中に「本人支援」、「家族支援」、「移行支援及び地域連携」の項目があり、「総合的な支援方針」も設定しています。	・職員への共通理解が課題です。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7.5	0.5	・あらかじめの立案を行いながら、同時に活動実施日の利用児の様子にあわせて、適切に柔軟に支援が行われています。	・一人ひとりの子どもに責任をもって支援するために担当者を決めています。複数の目で子どもの発達を把握し必要な支援を行うことも大切です。今後の課題です。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		・子ども園のデッキ、ホール、園庭などを活用して個々の思いに対応しています。 ・音楽、造形、絵本など、基本的な遊びをたくさんすることを大切にしています。	・カリキュラム検討会にて、活動の質も量も検討していきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	9		・デイこひつじとしては、個別活動の充実を大事にしていますが、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わう機会も持つようになっています。	・子どもと大人（職員）との関係を軸に、子ども同士のつながりを支援していきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		・支援開始前に、子どもの確認や、その日の動きや支援内容について確認をしています。	・パート勤務の方はシフト制になっているので、共有しきれていない時があることが課題です。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	3	・支援終了後に、急を要する必要な振り返りを行っています。・時間の関係上、次の日の朝に支援の振り返りを、必ず行うようになっています。	・朝の振り返りを充実を図っていきたく考えています。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7.5	1.5	・保護者への連絡帳の他に、業務日誌や、個別の支援記録を記入しています。それが支援の改善につながっています。	・記録の時間のために支援が不十分にならないように、その日に保護者にわたくし連絡帳以外の支援記録については、翌朝に行うようになっています。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		・6カ月に1回以上、モニタリングを行い、支援計画の見直しを行うようになっています。	
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8		・日常生活の充実と自立支援のための活動、多様な遊びや体験活動、地域交流の活動、子どもが主体的に参加できる活動に留意し支援を行っています。特に子どもの実体験を重視しています。		
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定する力を育てるための支援を行っているか。	8.5	0.5	・自分の好きな遊びを個別に保証することを大事にしています。毎日のおやつも自分で選ぶようにしたり、「嫌」という気持ちに寄り添うようになっています。		
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		・児発管理責任者が行くようになっています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5	4	・主治医の訪問が年に2回あり、助言などを機会となっています。	・関係機関との連携が課題です。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9		・学校の先生方に、送迎の際には短時間でも声をかける様にし良好な関係を保てるようにしています。 ・また、管理者より必要な情報や連絡を入れ、連携するように努めています。	・堺放課後等連絡会を通して、送迎の際のヒヤリハットについて、学校への申し入れを行っていました。子どもの安全に関わることなので、相互の協力が必要だと感じています。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	2	・同じ法人の子ども園からの連携だけでなく、つぼみ園などから情報をいただいています。	・就学前に利用していた施設からの情報を職員全体に共有していきます。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	2	・障害福祉サービス事業所の方が何度もお見えになり、必要な情報を共有させていただきました。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8		・堺市の育成事業に参加し、助言や研修を受けるようになっています。	
32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6.5	0.5	・ことごと倶楽部（こひつじ子ども園で活動している学童倶楽部）に参加しています。 ・こひつじ子ども園の卒園児に向けた行事に参加しています。 ・今年の夏休みには、こひつじ子ども園の学童保育と交流しました。	・今後も、長期休暇を利用して、子ども園の学童児との交流を深めていきたいと思います。	

	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。		6	・参加はしていないが、研修で自立支援協議会について、学ぶ機会がありました。	堺放課後連絡会などを通じて、協議会への参加を検討していますが、参加したことはありません。機会があれば参加したいです。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。		8	・送っていく際に保護者と話す機会を持つようになっています。	・パートの方にも、職員から伝えるようにして、理解してもらうようになっています。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7.5	1.5	・堺市や堺放課後連盟や、各関係機関から届く案内やチラシは、コピーし、各家庭に配布しています。	・職員の研修についても、検討していきたいです。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		9	・ご利用前に、説明しています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		9	・一人ひとりの面談を行っています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。		9	・個別支援計画を作成し、説明しています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		10	・毎日の送迎の時の会話や連絡帳などで、ご家族の心配事や悩み事などを把握するようにしています。必要ならば電話をしたり面談をしたりしています。 ・また、モニタリング等の時に、悩みごとなどをうかがうことになっています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7.5	1.5	・親子懇談会などで、自分の児以外の子どもや他の保護者と知り合う機会を設けています。きょうだいも参加できる遠足なども企画しています。また、今年度は、保護者同士の座談会なども行っています。	・保護者会や父母の会などは、今のところありません。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		9	保護者からの苦情相談窓口は、重要事項説明書に明記しています。また、実際の苦情については、事業所内で共できるだけ有するようにしています。保護者からの要望で公表しないこともあります。	・苦情があがっているのかかわからないが、アフターフォローを心がけるようにしています。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8.5	0.5	・毎月の利用予定表に前月の様子を伝える記事をのせたり、年に5回ほど、子どもたちの様子を伝える写真付きのおたよりを配布しています。	・ホームページやSNSを使つての発信は行っていません。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		10		・携帯電話で撮影した子どもたちの写真を、適切に保管するように変更しました。それが守られるように定期的に注意喚起していきます。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		9	・カードなどを、分かりやすい場所に設置し、使用しています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	6	・クリスマスが近づくと、近隣の方々に、プレゼントやカードを持って、訪問しています。	・今後の課題です。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8.5	0.5	・月に1回の避難訓練は、こども園と共同で、その時にいる子どもや職員と行っています。 ・施設内で研修などを行っています。	・保護者に伝えていくことが課題です。
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		9	・BCPは策定しています。 ・避難訓練は、月に1回、こども園と共同で行っています。その時にいる職員と子どもたちで避難しています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		9	・てんかん発作対応の確認は職員間でしている。服薬については、毎年のフェイスシートで確認しているが、予防接種については確認できていない。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	2	・現在は、食物アレルギー児はいませんが、食に関する配慮などは職員間で共有しています。	・書面による確認が必要だと考えています。毎年のフェイスシートに項目を追加します。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		8	・安全計画を作成しています。	

51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		・保健安全衛生の年間計画を保護者に配布しています。また、フェイスシートには、災害の際の引取り先も記入してもらっています。	
52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	1		・パート職員を含めたヒヤリハットの事業所内確認ができていません。 ・今後、議事録の閲覧などを通して、パート職員にも共有していきたいと思います。
53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		・こどもの人権委員会を設置し、こどもの権利侵害に気づく学びをしています。また、外部の虐待防止研修に適時参加しています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6	1	・現在、身体拘束をしなければならないような事態は発生していませんが、必要ならば組織的に判断し、保護者の同意を得るようにしています。	